



富田 たく



です。

日本共産党杉並区議団控室 電話 3312-2111(2319) FAX 3312-2610
メ-ル info@tomitaku.jp ツイッ- http://twitter.com/tomita_taku
ホ-ムペ-ジ http://www.tomitaku.jp

原水爆禁止2012世界大会開催！！ 核兵器はもういらない！！



↑ 大会の開会総会。各地の代表団がアピール。

今年も暑い8月がやってきました。日本人にとって、また世界の人人々にとっても8月は「平和」をいつも以上に心に留める季節です。

**戦争も核兵器もない
平和な世界を！**

1945年8月6日、9日のヒロシマ、ナガサキへの原爆投下。太陽の表面温度と殆ど変わらない高熱と、全てをなぎ倒す爆風そして身体を内側から破壊する放射線により、広島市と長崎市は焦土と化し、その年の終わりまでに合わせて21万人の命が消えてゆきました。

生き残った方々も重度の火傷や思い放射線障害に苦しみ、社会から様々な差別を受



↑ 笠井あきら衆院議員と一緒に記念撮影。

けてきました。多くの被爆者は「自分たちと同じ苦しみを二度と繰り返してはいけない」とうたっていています。被爆者の思いに寄り添い、核兵器廃絶をうったえる世界各国の人人々が、今年もヒロシマ・ナガサキに集まり、原水爆禁止世界大会が開催されました。原水爆禁止運動の発祥の地とされる杉並からも、私を含めて11名が、杉並原水爆禁止協議会から派遣されました。派遣団は8月4〜6日の広島大会に参加し、原爆被害の実相と核廃絶の重要性を改めて学びました。

核兵器・原発シンポジウム 原発からの撤退、自然エネルギーを考える

からは、ドイツでの原子力発電からの撤退についての報告が有りました。ドイツでは1958年頃より国内の科学者らが核兵器の開発を拒否し、原発自体にも懸念を抱いていたことがきっかけで、チェルノブイリ事故以前から国民的な議論が存在していたそうです。

広島大会2日目の分科会では、「原発からの撤退、自然エネルギーを考える」シンポジウムに参加しました。ドイツから参加した国際反核法律家協会共同議長ピーター・ベッカー博士

様々な紆余曲折があったものの、ドイツ国内で原発からの脱却が方向づけたのは原発に対する①国民的な社会運動、②科学者による理論的な運動、③脱原発を進める政治勢力の存在、の3つの要因があったためと分析されています。また特別ゲストとして福島県浪江町長の馬場有(たもつ)さんからは福島原発の事故当時の状況を報告がありました。東電と政府は原発爆発当時に全く情報を伝えず、避難指示もテレビから知った事、そのため計画的な避難が出来ず、町民が放射線被ばくにさらされた事、また、集团的・計画的な避難が行えず、集落や家族が日本全国でバラバラになり、世帯数が7千世帯から1万5千世帯に増えてしまった事を、政府と東電への痛烈な怒りをもって報告しました。



↑ 浪江町の馬場町長

広島原爆資料館 ～あの惨状を忘れない～

大会の合間を狙って原爆資料館にも行ってまいりました。焼け焦げた衣服や溶けて固まった空き瓶、投下直後の瓦礫となった広島市の街並みや、真黒に焦げた被爆者の写真など、原爆の恐ろしさに目を覆いたくなる気持ちでした。被爆者の辛さを少しでも知るためにも資料館はずっと残して欲しいです。



<写真説明>

原爆の熱(約5000度)で、粘土のように溶けて変形した屋根瓦(左上)。8時15分で止まった、焼け焦げた腕時計(左下)。原爆投下からの経過日数と、最後に行われた核実験からの経過日数を表示した柱時計(右)。

日本共産党発行



日刊●月 3400円
日曜版●月 800円

原爆も原発も
どちらもいらない！！

【ご購入の連絡先】

◇日本共産党 杉並地区委員会

TEL : 3314-5551

FAX : 3318-1492

放射線量測定します！

ご自宅の周りや公園など放射線の気になる場所はありませんか？
ご希望がありましたら、
私たちの測定器で測定します。
お気軽にご連絡を！

とみたメール info@tomitafaku.jp